

2019年度  
年次報告書

一般財団法人日本青年館

# I. 公益活動

## 1. 青年活動振興事業

### 1) 第68回全国青年大会の開催（11月8日～11日 日本青年館ほか）

全国青年大会は、講和条約発効を記念して1952（昭和27）年に第1回大会が開催され、以来、勤労青年のスポーツ・文化活動の発表と技能向上の場として、全国の青年団が中心となって毎年東京で開催しています。この大会は、一部の種目を除き国民体育大会や国際競技会などに出場した経験のある選手には参加資格がなく、地域で地道にスポーツや文化活動に携わっている青年が参加するものです。地域のスポーツ、文化活動の裾野を広げ、より多くの青年たちに活躍の場を提供するとともに、全国から集まった青年たちの交流と友好を深めることにも重点を置くことにより、平和で文化的な住みよい地域をつくっていくことを目的にしています。

今年度は42都道府県より1,655名（役員88名、体育の部1,415名、芸能文化の部152名）が参加しました。

初日は日本青年館ホールにて、瑤子女王殿下をはじめ多数のご来賓をお迎えし開会式を行いました。式典後に行った交歓プログラムには、東京2020パラリンピックでブラインドサッカーの強化選手に指定されている寺西一さん、特定非営利活動法人日本ブラインドサッカー協会の剣持雅俊さんをお招きしトークショーとブラインドサッカー体験プログラムを実施しました。

また、全国青年大会の交流企画として開催してきた全国青年物産市まつりを外苑マルシェと名称をあらためて、日本青年館1階コンコース内外で開催しました。外苑マルシェには17都道府県からは18団体に店出をいただきました。出店団体として青年団だけでなく、都内の青年団体や日本青年館近隣の商店、日青協の関係団体である在日本朝鮮青年同盟からもご参加いただいております。現役青年団やOBが手づくりした雑貨類や果物、被災地支援のために東北の海産物などの商品が出品されたほか、昨年につき一般社団法人全麵協の協力を得て、そば打ち体験教室を開催し大いに賑わいをみせました。

なお、民俗芸能の形を変えことなく若者の力で継承している団体に贈られる後藤文夫賞は、石川県大念寺青壮年団の「大念寺青壮年団獅子舞演舞」が受賞しました。

概要：石川県羽咋郡志賀町の大年寺地区の秋祭りで披露されている獅子舞。語り手の口上によりお囃子が始まり、剣一人に対し頭を含め四人で構成される獅子が2組乱舞します。

今年度の全国青年大会実施種目は以下の通りです。

#### <体育の部>

バレーボール、バスケットボール、バドミントン、軟式野球、卓球、柔道、剣道、ボウリング、フットサル

#### <芸能文化の部>

合唱、郷土芸能、写真展、生活文化展、将棋、意見発表、のどじまん、舞台発表

#### <交流プログラム>

外苑マルシェ

### 2) 第65回全国青年問題研究集会について（3月7日～8日 日本青年館）

「青年問題研究集会」（青研集会）は、1950年代に日青協が創造した、働く青年の生活課題の解決をめざす学習・実践活動を集約する集会です。1954（昭和29）年に、勤労青年の教育のあり方、

考え方として「勤労青年教育基本要綱」を策定した日青協は、青年の自主的学習活動として「共同学習」運動を全国に呼びかけました。共同学習運動は、仲間づくりと話し合い学習を重視し、活動や生活の身近な問題を語り合う中から共通の課題を見出し、共同の力によって課題解決の実践に取り組んでいくという、青年の主体性、自主性による実践的学習運動です。このような共同学習運動の全国的集約と発展的展開をめざす場として、日青協は1955（昭和30）年から「全国青年問題研究集会」（全国青研集会）を開催しています。青研集会は、青年個人や青年組織を巡る問題を、取り組んだ実践活動に基づいてレポート化し、テーマごとに分科会を設定して議論します。今日では地域課題の解決のほか、仕事や家庭、恋愛・結婚等、個々が置かれる生活実態、苦悩や不安等生きづらさや息苦しさを綴るレポートも寄せられ、今日的な青年問題が浮き彫りとなっています。こうした課題に対し、助言者の力も借りつつ参加者全体の集団討議を通じて問題の所在や社会的背景を明らかにし、再び地域で実践することで課題解決に努めることをめざしています。

今年度は、より参加しやすい青研をめざし、これまで2泊3日だった日程を1泊2日に変更し開催に向けて準備を進めてきました。事前の申し込みでは、日程変更の成果もあって参加予定者数が昨年に比べ増加しましたが、新型コロナウイルス感染症の影響による感染拡大防止を優先し、事業を中止しました。しかし、参加にあたって寄せられたレポートは一冊のレポート集にまとめ、参加者や関係者に配布しました。

### 3) Rebornこころのふるさとフォーラム2020の開催（2月8日 パルトピアやまぐち）

農山漁村と都市との連携と共生をめざし、それぞれの立場で地域づくりの現場に携わる人たちが集い、参加者同士をつなぐ新たなネットワークを構築するため、「Rebornこころのふるさとフォーラム2020」を2月8日にパルトピアやまぐち（防長青年館）で開催しました。実行委員会形式で行っている本事業は、社会教育・青少年教育に携わる市民団体（自治体問題研究所、全国水源の里連絡協議会、特定非営利活動法人地球緑化センター、日本都市青年会議）と日青協とで実行委員会を編成し企画・運営しました。

参加者数は実行委員を含め12都府県から36名でした。フォーラムでは、山口県の長門市三隅青年団団長の久保博成氏、地域おこし協力隊を経て山口県大津島で大学生と一緒に特産品の開発プロジェクトなど取り組む大友翔太氏、愛媛県大三島でゲストハウスと農園を営む鍋島悠弥氏の3名をパネラーとしてお迎えし、「地域で活動する意義」や「地元の人がいるからこそ、外からの訪れてきた人たちが生きる」などのこれまでの活動を通じて、地域の方と共に地域課題へ取り組む過程や経緯などをお話いただきました。

### 4) 全国地域青年「実践大賞」

「全国地域青年『実践大賞』」は、全国の優れた青年活動の取り組みに学びあい、それを顕彰するもので、全国の青年団や教育委員会などを通じて応募を呼びかけています。今年度は14道県から地域活動の部29件、教宣活動の部15件（グッズ5件、映像1件、ユニフォーム3件、SNS3件、機関紙3件）合計44件の応募がありました。実践大賞、教宣大賞並びに田澤義鋪賞、全国青年団OB会奨励賞の実践と審査員講評は以下の通りです。

#### □審査員

萩原 建次郎 氏（駒澤大学 教授）

赤坂 渡 氏（中日新聞東京本社広告局局部長）

三友 千春 氏（元日青協副会長）

桐山 理恵 氏（デザイナー）

澁谷 隆（一般財団法人 日本青年館 公益事業部部長）

棚田 一論（日青協 事務局長）

#### <実践大賞>

寄せられた実践の中で最も優れた実践に取り組んだ団体に授与されます。

受賞団体

徳島県石井町・石井町青年団

「ふじっこちゃんダンスを地域ひっくるめて踊ってみた企画」

「石井町納涼夏祭り」 「ふじっこちゃん Summer Fes.」

#### ■実践概要

「ふじっこちゃんダンスを地域ひっくるめて踊ってみた企画」

石井町のゆるキャラ「ふじっこちゃん」にちなんだ「ふじっこちゃんダンス」という、町内幼稚園児が全員踊れるような地域に根差したダンスを、町内のボランティア団体・商工会・行政など、あらゆる団体を巻き込み、町内みんなで石井町をアピールできる動画として撮影し、SNSや、地元ケーブルテレビで放送した実践です。

「石井町納涼夏祭り」

石井町で伝統的に行われてきた石井町納涼夏祭りは第47回を数えるまでとなりました。第1回から青年団が中心となって開催してきたお祭りは、近年は自治体主導にて実施されていきましたが、今回新たに青年団の手による夏祭りを計画しました。近年は参加者が減少していましたが、石井町青年団員の様々なアイデアにより町内外からの多くの人が集いました。

「ふじっこちゃん Summer Fes.」

ふじっこちゃんSummerFes. は今年で3回目を迎えます。町内外での知名度も上がってきたことにより、参加者が毎年増えています。より多くの人に祭りを知ってもらうために動画コンテンツを作り発信しました。

#### <教宣大賞>

寄せられた実践の中で最も優れた教宣活動に取り組んだ団体に授与されます。

受賞団体

滋賀県蒲生郡日野町・第50回町民駅伝大会 モザイクアート

#### ■実践概要

第50回町民駅伝大会を開催するにあたり、記念大会として残るものを作ろうと、これまでの駅伝大会にまつわる写真等を約3,000枚集め手作業で張り合わせ、50年間の歴史を1つの作品にまとめた実践です。

#### <田澤義鋪賞>

田澤義鋪（1885（明治18）年～1944（昭和19）年 日本青年館第5代理事長）は25歳で静岡県安倍郡長として、青年団にかかわります。その後内務省明治神宮造営局総務課長を務め、明治神宮の造営にあたり青年団の労力奉仕（ボランティア）を建議しました。こうした田澤義鋪氏の実績に基づき、明正選挙運動、地方自治の発展や地域振興活動に取り組み、優れた成果を収めた団体に一般財団法人日本青年館から贈られます。

受賞団体

愛知県安城市・安城市青年団協議会「南吉生誕祭における「南吉盆踊り」

## ■実践概要

安城市図書館の職員から安城市青年団協議会に、図書館で毎年行っている「南吉生誕祭」で青年団員の盆踊りを披露してほしいと依頼がありました。これを受け、事業実施に向けた交渉や盆踊り披露のために講習会の計画等を、豊橋市青年団や愛知県青年団協議会と共に行った実践です。

### <全国青年団OB会奨励賞>

全国の青年団にとって励みとなるような組織強化拡大に顕著な実績を上げた団体に、全国青年団OB会より贈られます。

#### 受賞団体

宮城県大郷町・大郷町青年団「大郷町災害ボランティアセンター支援活動」

## ■実践概要

2019年10月12日夜から翌13日未明にかけて宮城県内を通過した台風19号による大雨で、町内を流れる吉田川の堤防が決壊し、水害や土砂崩れにより大郷町も大きな被害を受けました。団員自身も自宅や職場に被害がありましたが、「町のためになにかできることをしよう！」と大郷町社会福祉協議会が運営する大郷町災害ボランティアセンターのボランティアスタッフとして活動を行った実践です。

### <後藤文夫賞>

後藤文夫（1884(明治17)年～1980(昭和55)年）は、日本青年館理事長を二度（1930(昭和5)年～1934(昭和9)年、1956(昭和31)年～1969(昭和44)年）にわたり務め、開館当時より民俗芸能の発掘や発展に尽力してきました。その功績を偲び、1991(平成3)年度より「全国青年大会郷土芸能部門」に後藤文夫賞を創設し、民俗芸能の形を変えずに若者の力で継承している団体にこの賞が贈られます。

#### 受賞団体

石川県大念寺青壮年団 「大念寺青壮年団獅子舞演舞」

## 5) 第50回北方領土復帰促進婦人・青年交流集会の開催（7月13日～15日・根室市）

日青協は1966(昭和41)年より北方領土返還要求運動に取り組み、1970(昭和45)年より婦人会の全国組織である全国地域婦人団体連絡協議会とともに、北方領土を望む納沙布岬での視察、北方領土問題の学習、元島民の返還への思いを聞くなどの内容で、北方領土復帰促進婦人・青年交流集会を開催してきました。

今年度は、7月13日から15日にかけて、北方領土返還要求運動の発祥の地である北海道根室市において、全国地域婦人団体連絡協議会（全地婦連）と「第50回北方領土復帰促進婦人・青年交流集会」を実施し、主管団体の北海道青協をはじめ全国各地より青年団から8道県18名、全地婦連の参加者を合わせて89名が現地に集いました。

また、2月7日「北方領土の日」にあわせ、内閣府、青年、労働、婦人、地方6団体等、官・民で編成された実行委員会が主催する「北方領土返還要求全国大会」が安倍首相、茂木外相等出席のもと国立劇場で行われ、大会の実行委員長である福永晃仁・日青協会長が挨拶しました。

## 6) 国際交流事業

### (1) 中華全国青年連合会との交流及び韓国青少年団体協議会の代表団の招聘

日青協は1956（昭和31）年より中華全国青年連合会（全青連）と交流を行っています。また、韓国青少年団体協議会（韓青協）との交流は、2012年に（社）中央青少年団体連絡協議

会（中青連）の解散を受け、中青連事務局機能の役割を担う日青協が、中青連事業だった韓青協との交流事業を2015（平成27）年から承継し実施しています。これら交流の実績に基づき、今年度は下記の取り組みを行いました。

#### ①第28次日青協植林訪中団（9月7日～11日／中国北京市 他）

中華全国青年連合会の招聘により、藤原麻美副会長を団長、棚田一論事務局長を秘書長とする団員9名で構成された日青協第28次植林訪中団を、内モンゴル自治区ダラトキに派遣しました。現地では、日本青年館訪中団12名をはじめ日本国際ボランティア協会50名ほか、北京大学、清華大学、中華人民大学および中国で勉強している学生たちも合流し汗を流し、約120本のポプラを植樹しました。また、技術者として同行いただいた西野文貴氏と武井理臣氏による新たな試みとして、日本から持ち込んだ生分解性の綿でできた不織布の袋に、現地に生えている外来種を中心とした草を詰め込み、苗木の根元に敷設する植栽方法の実験を行いました。

今年度の参加者は次の通りです。

- 団 長：藤原 麻美（日青協副会長）
- 副団長：中園 謙二（日青協副会長）
- 顧 問：久保田満宏（日青協顧問）
- 秘書長：棚田 一論（日青協事務局長）
- 団 員：片桐 充弘（岐阜県青年団協議会元会長）
- 団 員：古武家梨緒（日本青年館職員）
- 団 員：可部 絢子（日青協事務局）
- 技術者：西野 文貴（株式会社グリーンエルム 植生景観管理事業部）
- 技術者：武井 理臣（東京農業大学大学院 農学研究科林学専攻）

#### ②韓国青少年団体協議会（韓青協）との交流（12月5日～8日・ソウル市内他）

細川真嗣常任理事を団長とする4名の代表団を派遣しました。現地では韓国青少年団体協議会と、キリスト教青少年協会による温かい歓迎を受け、終始和やかな交流と学びを深めることができました。今回のプログラムはDMZ（非武装地帯）や、朝鮮半島の戦争史が収められた戦争記念館など、その土地でしか学べない場所を訪れるだけでなく、現地青年との意見交換において、学業から就職、恋愛、そしてお互いの文化について韓国の青年の率直な意見を知ることができました。

今年度の参加者は次の通りです。

- 団 長：細川 真嗣（日青協常任理事）
- 秘書長：可部 絢子（日青協事務局）
- 団 員：松井 里美（滋賀県もりやま青年団団員）
- 団 員：倉田 大輔（早稲田大学鵬志会幹事長）

#### 7) 東日本大震災で被災した仲間の想いを風化させないための取り組み

震災の記憶を風化させないよう地域青年の声を集めた震災パネルの普及をめざし、自治体の地域政策担当者に震災パネルの案内チラシを送付しました。9団体から9件の利用申込がありました。

## 2. 第68全国民俗芸能大会（11月23日 日本青年館ホール）

全国各地に伝えられる民俗芸能は、各地の風土と生活の中で生まれ、地域の人々によって歴史的

に育まれてきたものです。それらは国民の生活の推移を物語る貴重な民俗文化財でもあります。この大会は、このような各地の貴重な民俗芸能を舞台上で公開し、民俗芸能の重要性を多くの人々に認識してもらおうと開催してきました。

歴史をひもとくと、日本で初めて地域の芸能を舞台上で紹介したのが初代日本青年館のこけら落としとして開催された「郷土舞踊と民謡の会」で、1925(大正14)年のことでした。これまでに450近い数の芸能を紹介してきました。出演者にとっては大会出場が大きな自信につながり、これを契機に芸能の保存の機運も高まるなど大きな成果をあげています。また、早くからこうした芸能の記録保存に取り組んできたのも当大会でした。

今年度の第68回全国民俗芸能大会は、11月23日に日本青年館ホールで開催しました(共催：全国民俗芸能保存振興市町村連盟)。出演芸能は以下の通りです。

- ・小林の獅子舞(栃木県日光市)
- ・美濃流し仁輪加(岐阜県美濃市)
- ・津和野弥栄神社の鷺舞(島根県津和野町)
- ・白銀四頭権現神楽(青森県八戸市)

入場者数は615名。荒天の影響もあり、昨年よりも入場者は減少しましたが、観覧者は鷺舞や神楽のように長年にわたり伝承されている芸能の貴重さや所作の優美さだけでなく、獅子舞の勇壮さや仁輪加の可笑しさなど、民俗芸能の持つ幅の広さを大いに堪能し、惜しめない拍手が送られました。雑誌「民俗芸能99号」の販売部数は97部(昨年度は99)でした。また、今大会よりアナウンスを國學院高校放送部に依頼し、これまでとは異なる演出となりました。

#### <企画委員会>

- ・山路 興造 民俗芸能学会理事
- ・星野 紘 東京文化財研究所名誉研究員
- ・齋籐 裕嗣 東京文化財研究所無形文化遺産部客員研究員
- ・宮田 繁幸 東京福祉大学留学生教育センター特任教授
- ・俵木 悟 成城大学文芸学部教授
- ・神田 竜浩 文化庁参事官(芸術文化担当)付 芸術文化調査官
- ・久保田 裕道 東京文化財研究所無形民俗文化財研究室長
- ・吉田 純子 文化庁文化財第一課 文化財調査官

### 3. 月刊誌「社会教育」の発行

2019年度は月刊誌「社会教育」を12回、下記のような内容・発行部数で毎月発行しました。社会教育を多様な角度から幅広くとらえ、行政、施設職員など多様な分野の方々から好評を得ています。

2019年度の特徴としては、5月号にて「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」(平成30年12月21日中教審答申)を全文掲載し、社会教育法70周年の特別企画を紹介しました。7月号では「ラグビーワールドカップ2019」をテーマとした特集、10月号では「若者・未来の若者」を増大号として特集しました。

2019年6月9日には、社会教育法制定70周年の前日の日曜日、前仙台市長の奥山恵美子氏らを迎え、2018年度の「社会教育」に紹介された記事の中から、読者からの投票により「アワード2018」として2018年6月号に掲載された「カフェ経営×学びの場づくり」(川上和宏さん執筆)が選出されました。

た。社会教育法制定70周年を記念しての読者の交流機会を持つことができました。「社会教育」の販売促進と日本青年館の広報も目的とし、30名の参加がありました。参加者からは日本青年館の事業（清溪セミナー等）に参加したいと具体的な照会がありました。また、日本青年館主催事業の「全国まちづくり若者サミット」の広報や報告記事を掲載するなど、青年問題研究所の事業との連携を図ってきました。なお、編集部にて立教大学大学院より社会教育主事の実習生（大学院生1名）を受け入れました。（2019年7月～9月）

さらに、2020年4月7日には、「社会教育」で紹介した連載記事を編集し直し、書籍として『社会教育行政職員のための「虎の巻」：社会教育行政の基本・実践ガイド』（栃木県立足利工業高校教頭・国立教育政策研究所フェロー井上昌幸氏 著）を発行、全国の社会教育関係団体が企画する新任研修の資料としても、活用が予定されています。

#### <2019年度「社会教育」特集テーマ>

- 2019-04 地域学校協働活動（874号）
- 2019-05 社会的セーフティネットの構築～地域共生社会の創造に向けて～（875号）
- 2019-06 リカレント教育・学習（876号）
- 2019-07 ラグビーワールドカップ2019（877号）
- 2019-08 ICOM 京都大会2019 博物館の魅力（878号）
- 2019-09 スポーツ・体験・レガシー（879号）
- 2019-10 若者・未来の若者（880号）
- 2019-11 芸術・文化・音楽の力によるつながりづくり（881号）
- 2019-12 安全安心社会づくりに向けて（882号）
- 2020-01 グローバル化時代の世界の生涯学習（883号）
- 2020-02 ウェルネスの多様な視点から（884号）
- 2020-03 2019年度の社会教育・生涯学習から2020年度への展望（885号）

※普通号 96p：税込定価 802円（本体 743円）

19年10月以降消費税10%税込定価 817円

増大号 144p：税込定価 1,234円（本体 1,143円）

19年10月以降消費税10% 税込定価 1,257円

#### 2019年度

	4月号	5月号	6月号	7月号	8月号	9月号	10月号	11月号	12月号	1月号	2月号	3月号	合計
A 取次	1,375	1,370	1,375	1,373	1,373	1,371	1,373	1,370	1,371	1,367	1,363	1,361	16,442
B 直接	396	396	401	394	395	395	392	392	394	395	397	397	4,744
合計数	1,771	1,766	1,776	1,767	1,768	1,766	1,765	1,762	1,765	1,762	1,760	1,758	21,186
印刷部数	2,250	2,250	2,250	2,270	2,250	2,200	2,200	2,200	2,200	2,200	2,200	2,200	26,670

#### 4. 青年問題研究所

地域の青年集団を再生し担い手を育成することを目的に、青年問題に関する調査・研究活動を行うほか、地域青年活動団体のプラットフォームの役割を日本青年館が果たすため、東洋大学の矢口悦子教授をはじめとする専門家との懇談や、新たな地域青年活動の事例調査を行ってきました。

##### 1) 統括会議について

今年度より再開させた青年問題研究所では以下の体制で活動をすすめました。

○運営体制

役割	日本青年館	日青協
所長	榎 信晴（日本青年館理事長）	
副所長	山本 信也（常務理事）	福永 晃仁（会長）
所員	澁谷 隆（公益事業部長） 田中 潮（同課長）	棚田 一論（事務局長）

○研究体制

常任研究員	
名前と所属	矢口 悦子氏（東洋大学教授） 辻 智子氏（北海道大学准教授） 井口啓太郎氏（国立市教育委員会） 岡下 進一氏（日青協元会長） 島田 茂氏（元日本YMCA同盟総主事）

6月29日、9月15日、12月14日および2月1日に統括会議を行い、別記の「全国まちづくり若者サミット」の企画検討および「地域青年活動と青少年教育に関する調査」の内容について検討を行いました。なお、調査内容の検討・分析と前述の若者サミットの評価を行う5回目の研究所統括会議を3月13日に予定していましたが、新型コロナウイルスの感染対策のために延期しました。

## 2) 「全国まちづくり若者サミット2020」の開催について

全国各地で行われている若者による地域課題解決の実践をもちより、学びと交流を深め、互いの活動を深化させることを目的に、2月1日から2日に日本青年館で行いました。参加者は17都道府県より71名。全国各地から21団体の活動報告が寄せられました。

今回は各団体15分ずつの活動報告と、ワールドカフェ方式による少人数のグループ討議を実施。活動報告内容は商店街活性化、多文化共生、空き家対策、若者の就労支援、投票率向上など、テーマが重複することなく多岐にわたっており、各地で様々な活動が行われていることが明らかになりました。今回の成果としては、活動報告と意見交換をはじめ、交流会の時間なども含めきわめて充実した学びと交流の場となったことです。参加団体の多くは他団体の活動に接する機会がこれまでほとんどなく、感謝の声が相次ぎました。また、参加者アンケートでは「非常に満足」「満足」をあわせて87.5%に達しているほか、事業の継続を望む回答も多く、この事業の今後の発展が期待されます。

## 3) 地域青年活動と青少年教育に関する調査について

地域青年団と若者の地域活動の実態把握および各区市町村教育委員会の支援の状況把握を目的に1月20日に標記調査を全自治体に送付しました。同様の調査は2009年にも行っており、今回は10年ぶりです。

設問項目は全12問。主として青年活動や青少年教育に関する条例や計画、担当職員の有無、援助の制度など自治体の支援に関する事項と、青年団をはじめ青年団体の組織や活動実態を調査する事項の二つが大きな柱です。当初、締め切りを2月末日としていましたが、回答期限を4月上旬に延長、結果的に計1,181自治体より回答が寄せられました。

調査結果は集計・分析の上、日本青年館ホームページ、雑誌『社会教育』（日本青年館発行の月

刊誌)で公表するほか、各自治体には報告書を郵送し、結果を報告する予定です。また、調査結果は日青協とも共有し、地域青年団活動活性化への足掛かりとして活用していきます。

#### 4) 財団設立100周年に向けた取り組み

2021年9月2日に財団設立100周年を迎えるにあたり、日本青年館ホールなどを利用した記念式典や民俗芸能の披露など、財団内外に向けた事業の開催を検討してきました。また、日青協結成70周年とも重なるため日青協とも協議をしながら、全国青年団OB会第40回総会東京大会とも併せて開催する方向で調整を行ってきました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴う日本青年館の運営状況や、1年延期となった2020東京オリンピック・パラリンピックに関連し、2021年9月に日本青年館の会場が利用されることとなっているため、日程も含め再度検討することとしています。

一方、図書・資料センターの取り組みと連携し、「日本青年館70年史」以降のおよそ30年の歩みを中心とした「財団設立100周年記念誌(仮称)」の発行を計画。100年を通じた年表作成に向け、戦後の年次報告(事業報告)の画像PDF化を進めたほか、大日本青年団史や70年史の年表化に着手しています。年史の全体像として、A4版カラー120ページほどに事業編及び資料編を編纂する案を基に内容を精査しています。また、青年問題研究所の活動と連携し、「21世紀版青年白書」の準備の一環として、「地域青年活動と青少年教育に関する調査」を行い1,181の自治体の青年支援策の有無や青年組織の現状を把握。2月に開催した「若者サミット2020」においては多くの実践事例を集約しました。引き続き「地域青年活動と青少年教育に関する調査」の集約を行うとともに集計や分析を行っていく予定です。また、全国青研集会レポートのデータベース化については、劣化の激しい第1回から8回までの画像保存を終了するとともにレポート内容に沿ったキーワード付与を始めたほか、すでに画像データとなっている戦前の地域青年団報とともに検索システムの導入を検討しています。

### 5. 図書・資料センター

日本で唯一、戦前・戦後期の地域青年団活動資料を多数所蔵する当館の図書・資料センターは、財団設立4年後の1925(大正14)年に建物の竣工とともに付設されました。当時は、数少ない一般公開の図書館として市民にも広く活用されていました。近年は、資料センターとしてとりわけ社会教育関係者、研究者、学生、自治体史編さん関係者、メディア関係者等多くの方々に利用され、貴重な資料の保存と資料センターとしての役割を担ってきました。

今年度は、図書・資料センター内の整理を継続的に行いながら、以下の作業を進めてきました。

#### 1) 資料室の配架と整理について

資料の配架と保存・整理を継続的に行いました。特に戦前資料の整理と劣化が進んでいる資料の修復や、日青協の資料を中心に配架と整理を行ったほか、戦前の財団発行図書の目録作成の作業を進めました。

#### 2) 戦前地域青年団報の整理・保存について

戦前の地域青年団報の原本の整理・保存が8月に終了しました。すでに多仁照廣先生が取り組んでくださったデジタル画像化とあわせて、12,858点、約20万ページの団報が原本、画像ともそろっているのは日本青年館だけで、大変貴重な資料です。今後は財団設立100周年に向けて、できるだけ多くの方々に見ていただけるよう具体的な公開の方策を検討していきます。

#### 3) 青研レポート集の保存・画像化と活用などについて

全国青研集会のレポート集の劣化が進んでおり、今年度は第1回～8回までのレポート集のPDF化の作業が完了しました。

なお、9回以降のレポート集のスキャニング等については、今後実施する予定です。

青研レポートは貴重な財産として後世に継承される必要があるとして、その保存・保管と活用、青年教育に関する研究について、北海道大学教育学部准教授の辻智子氏を中心に、矢口悦子氏（東洋大学教授・日本青年館評議員）ら複数名の研究者が研究の準備を進めています。その一環として9月12日には、過去に青研集会にレポートを書いて参加した山形県遊佐町・佐藤秀彰氏、山形県高島町・前田礼子氏、滋賀県高島市・海東英和氏の3人に、当時の状況やその後の活動などについて研究者が試行的にインタビューを行いました。

また10月からは、辻先生がレポート集を学生に読ませるなど授業の一環としても活用されました。

#### 4) 神奈川大学国際常民文化研究機構主催の共同研究フォーラム

『青年と学問』の時代－昭和戦前期の郷土と民俗学－の開催について

7月6日、神奈川大学国際常民文化研究機構の研究グループ（6人）が神奈川大学において標記フォーラムを開催しました。この研究グループは2017年～2019年の3年間にわたって日本青年館所蔵の「日本青年新聞」「青年」などを中心に戦前の若者と民俗学の関係について研究をすすめてきました。今回のフォーラムでは、日本青年館が大正末期から昭和初期にかけて民俗学研究の拠点としての役割を果たしていたことや、戦前の郷土の生活・産業、工芸・芸能の関係、青年による郷土更生、田澤義舗の実践など、ほぼ全てが青年館所蔵資料からの研究成果として報告されました。

資料センターとしてこの研究活動に資料閲覧の全面的な協力をしてきたと共に、フォーラムには青年館職員3名が参加しました。報告書は神奈川大学国際常民文化研究機構より刊行予定です。

#### 5) 資料センターの閲覧状況について

4/1～3/10の資料センター閲覧は24件。内訳は以下のとおりでした。

戦前資料に関する研究者の閲覧（7件）

民俗芸能に関する研究者の閲覧（2件）

戦前の青年団に関する地域の市民グループまたは個人による閲覧（3件）

戦前の青年団に関する閲覧（大学生、大学院生論文のため）（5件）

結婚相談所に関する閲覧（1件）

日青協の平和運動、北方領土返還要求運動に関する閲覧（2件）

資料センター見学（一般、OB・OG、含む）（4件）

・戦前のフィルムの利用について

NHK地方局制作のニュース、ドキュメンタリーなど（3件）

なお、3月後半に予定していた閲覧2件は新型コロナウイルスの影響により延期となりました。

## 6. 文化事業

### 1) ウィーン・ピアノデュオ・クトロヴァッツ（PDK）の交流公演

（11月17日～28日、日本青年館ホールほか）

全国各地の方々に地元で世界レベルの音楽に触れる機会を提供することを目的に、海外からすぐれたアーティストを招聘し、全国的なコンサートツアーを実施しています。

今年度も世界最高峰のピアノデュオ奏者で、ウィーン国立音楽大学の教授も務めるエドワード & ヨハネス・クトロヴァッツの両名を、11月17日（日）～28日（木）の日程で招聘しました。三代目日本青年館ホールでは初めてとなる単独コンサートを実施し、1000人近い観客に楽しんでいただきました。公演地は下記の通りです。

2019年

11月17日(日)	秋田県	由利本荘市	文化交流館カダレー
11月19日(土)	千葉県	流山市	スターツおおたかの森ホール
11月21日(木)	東京都	新宿区	日本青年館ホール
11月22日(金)	福島県	会津若松市	会津風雅堂
11月26日(火)	新潟県	五泉市	さくらんど会館

## 2) オーストラリアのチェロ四重奏グループ「イ・チェリスティ」の招聘

日本青年館、日青協、株式会社ニッセイの共同主催としてオーストラリア西部のパーズを拠点とする西オーストラリア交響楽団のチェロ奏者4人組「イ・チェリスティ」を7月7日～15日の日程で招聘。全国5か所にてその素晴らしいチェロのアンサンブルを披露しました。あわせて山中湖畔荘清溪のレストラン「ラプソディ」でも演奏会を開き、宿泊とセットでご案内したところ56名のお客様に鑑賞していただきました。

イ・チェリスティ 日本公演 全5公演

2019年

7月8日(月)	秋田県	由利本荘市	文化交流館カダレー
7月9日(火)	秋田県	八郎潟町	農村改善センター
7月12日(金)	東京都	新宿区	日本青年館ホール
7月13日(土)	千葉県	流山市	スターツおおたかの森ホール
7月14日(日)	山梨県	山中湖村	山中湖畔荘ホテル清溪

## 7. 高校オーケストラ活動支援事業

日本青年館で第1回目のオーケストラフェスタが開催されたのは1995年1月のことです。日本青年館を活用してのオーケストラ活動を通じた青少年育成の取り組みも26年目を迎えました。「高校の吹奏楽は全国的な発表・交流の場があるが、オーケストラの場合はそうした場がない。ぜひそのような場を」という高校の先生方の声を受けてのスタートでした。以来、ティンパニやコントラバスなどの大型楽器の配備・充実に努めるとともに、1998年には全日本高等学校オーケストラ連盟を組織し、全国的なネットワークづくりにも取り組んできました。現在、連盟には全国107の高校が加盟しています。

今年度は、その連盟と協力して以下の5つの事業に取り組んできました。

### 1) 第20回全国高等学校オーケストラ・サマースクールの開催

(8月16日～19日、山中湖畔荘清溪)

楽器演奏の基礎的な力を高め、高校生同士の交流をはかり、プロ奏者からの直接指導による技術と音楽性の向上を目標に、全日本高等学校オーケストラ連盟主催、日本青年館後援により開催しました。参加者は全国から32校150名。今年度も昨年同様に個人レッスンの時間をしっかりと確保し、経験に合わせた指導を充実させたことで、参加者のみならず講師からも高い評価を得ま

した。昨年度に続き合宿の成果を発表する場として、最終日にサマーオーケストラの参加者と合同で、富士吉田市ふじさんホールにおいて演奏会を行いました。

## 2) 第3回全国高等学校サマー・オーケストラセミナーの開催

(8月16日～19日、山中湖畔荘清溪・ふじさんホール)

音楽をつくりあげるための実践的な指導を通じて、より高い技術と音楽性を身に着けることを目的に、全日本高等学校オーケストラ連盟主催、日本青年館後援により開催しました。参加者は24校98名と昨年比で35名、一昨年比で59名増加するなど、学校等への浸透が図られてきました。

最終日には合宿の成果として一般公開による演奏会をふじさんホール（約800席）で開催しました。

前述のサマースクールと合わせて富士吉田市教育委員会と山梨県教育委員会より後援をいただき、市内の小中学校にチラシを配布し、生徒の保護者・近隣住民約300名に会場いただきました。

## 3) 第26回全国高等学校選抜オーケストラフェスタの開催

(12月25日～28日 日本青年館ホール)

(主催：全日本高等学校オーケストラ連盟、一般財団法人日本青年館)

12月25日～28日の4日間、日本青年館において第26回全国高等学校選抜オーケストラフェスタを全日本高等学校オーケストラ連盟と共に開催しました。全国から79校（73演奏団体）、3,963名の中高生が参加し成功裡に終了しました。

生徒の運営により行われる交流会については、各日程の最終演奏校に企画を依頼し、生演奏を伴うパフォーマンスや歌唱などユニークな出し物で会場は一体となり、参加生徒にとって大変有意義な時間となりました。また、各校から選抜された生徒によって編成される選抜合奏の演奏は高校オーケストラの模範となる素晴らしい演奏となりました。期間中、保護者を中心に1,967名のお客様にご来場いただきました。また、12月26日には、文部科学省浅田和伸総合教育政策局長より来賓祝辞をいただき、文化活動や青少年教育において日本青年館とオーケストラ連盟が果たす役割について内外に発信することができました。選抜生徒による演奏曲目と指揮者は下記の通りです。

<選抜オーケストラ> A日程グループ21校119名 B日程グループ23校129名  
演奏曲目 P.ï. チャイコフスキー作曲／交響曲第5番ホ短調 作品64より第4楽章  
指揮者 河地 良智 (洗足学園音楽大学名誉教授 前同大学副学長)

<選抜弦楽アンサンブル> A日程グループ15校46名 B日程グループ17校50名  
演奏曲目 武満 徹作曲／「3つの映画音楽」  
1. ホゼー・トレス「訓練と休息の音楽」  
2. 黒い雨「葬送の音楽」  
3. 他人の顔「ワルツ」

指揮者 大川内 弘 (元日本フィルハーモニー交響楽団コンサートマスター)

## 4) 第1回全国高等学校オーケストラセミナーin仙台の開催(2月8日～9日 宮城県青年会館)

高校オーケストラ活動の地域的普及をめざし、標記事業を日本青年館主催、全日本高等学校オーケストラ連盟共催により2月8日から9日に宮城県青年会館で開催しました。参加者は東北を中心に12名。事業実施にあたっては宮城県青年会館の協力をいただきました。

課題曲は以下の通りです。

ヘンデル／オラトリオ《メサイア》より「序曲」「No. 13 田園交響曲」「No. 42 ハレルヤ」

#### 5) 指揮法初級講座の開催（2月23日・3月8日 日本青年館）

高校生指揮者の技術向上とリーダー育成を目的に、全国高等学校オーケストラ連盟が主催し日本青年館が後援となり、2月23日に指揮法初級講座、3月8日に指揮法中級講座を日本青年館で開催しました。全国から11名の高校生指揮者が参加しました。（指導：河地 良智 ピアノ伴奏：高野 直子、佐藤 全子）

#### 6) 全日本高等学校選抜オーケストラ・オーストリア公演2020について

（主催：全日本高等学校オーケストラ連盟 後援：一般財団法人日本青年館  
旅行取扱：株式会社JTB埼玉支店 国際音楽交流事業）

全国高等学校オーケストラ連盟が主催し日本青年館が後援となり、全国の音楽を愛する中高生による選抜オーケストラを組織し、3月25日～3月31日の日程でオーストリア・ウィーンを訪問しウィーン・コンツェルトハウスのモーツァルト・ザールで演奏会を行う海外公演（通称：ウィーン隊）を今年も企画しました。チェロ協奏曲の独奏チェロにはウィーン・フィルハーモニー管弦楽団のウォルフガング・ヘルテル氏を迎え、演奏会には水谷章在オーストリア日本国大使を来賓として迎えることが決定し、中・高校生54名に教員・スタッフを加えた総勢65名の派遣を予定していました。

しかし、ヨーロッパでも新型コロナウイルスの感染が拡大する中、最後まで在オーストリア日本大使館の協力のもとリスク軽減措置を尽くした上で公演の実現に向けて準備を進めておりましたが、利用予定会場の閉鎖などツアー実施が物理的に不可能と判断し中止としました。参加者には連盟より、旅行のしおりと現地演奏会で配布予定だったプログラムを送付しました。

### 8. 第24回清溪セミナー（7月17日～18日 日本青年館）

地方自治体の若手政治家の研修・交流の場として実施してきた本セミナーは、青年団出身の若手政治家の手によって1997年2月に第1回目が開催されました。大きな特色の一つは、全国から選出された実行委員による自主的な運営であること。二つ目は、参加者の声を活かし時宜を得たテーマを設定し、本セミナーの趣旨をご理解いただく専門の講師をお招きしていること。三つ目は超党派であること、が挙げられます。

24回目を迎えた本年度から初の女性実行委員長となる白井えり子委員長（愛知県日進市議）のもと「防災」をテーマに開催し、31都府県から76名が参加しました。昨年に引き続き、今年も参加者同士の議論の場としてグループ討議（防災ワークショップ）の時間をもち、講師の池田恵子静岡大学教授のゼミナール学生も大学の授業の一環として議論に加わりました。プログラム及び講師は下記の通りです。

講義Ⅰ「被災自治体からの提言～熊本地震の経験から～」

大西 一史 氏（熊本市長）

講義Ⅱ「女性の視点を生かした災害に強い地域づくり」

池田 恵子 氏（静岡大学教育学部教授・同防災総合センター兼任教員）

グループ討議「防災ワークショップ」

池田 恵子 氏（同上）

講義Ⅲ「災害大国ニッポン、体験的防災論」

福岡 政行 氏（常任講師・東北福祉大学特任教授）

#### 講義Ⅳ「男女共同参画と地方自治」

坂東 眞理子 氏（昭和女子大学 理事長・総長）

#### 講義Ⅴ「真の地方創生と地方自治」

片山 善博 氏（早稲田大学大学院政治学研究科教授）

また、1月29日（水）～30日（木）にかけて「住民力を活かした地域づくり ～住民と行政の協働～」をテーマに、京都府福知山市の行政視察を行い、実行委員を中心に17名が参加しました。

## 9. 田澤義鋪記念会

田澤義鋪（1885（明治18）年～1944（昭和19）年 日本青年館第5代理事長）は、25歳で静岡県安倍郡長として青年団にかかわります。その後内務省明治神宮造営局総務課長を務め、明治神宮の造営にあたり青年団の労力奉仕を建議。明正選挙運動にも多大な貢献をしました。

こうした田澤義鋪の残した民主的平和的な社会教育上の精神と業績を伝え、その実現に努めることを目的に、毎年田澤義鋪記念会を開催しています。

### 1）第75回総会の開催（11月1～2日 明治神宮、明治神宮ミュージアム）

田澤義鋪記念会総会を11月1日の明治神宮「秋の大祭」にあわせて大九報光会とともに開催し、会員19名が出席しました。総会では初代日本青年館建設のきっかけとなった明治神宮造営とそれを担当した田澤義鋪に思いを馳せながら、昨年度の取り組みの報告のほか、佐賀県鹿島市民図書館学芸員の高橋研一氏に、田澤義鋪の生きた時代と、新たに発見された田澤の日記から読み取る田澤義鋪の実像について講演していただきました。総会にあわせ、大九報光会、全国青年会館協議会理事長会の皆様と共に、明治神宮敷地内に10月26日にオープンしたばかりの「明治神宮ミュージアム」を見学しました。

### 2）田澤会通信第185号の発行

3月24日付で田澤会通信185号を発行しました。田澤会総会の様子や田澤記念館の情報、日青協実践大賞で授与した田澤義鋪賞のほか、明治神宮鎮座100周年を迎えた明治神宮の事業情報などの記事を掲載しました。

### 3）田澤義鋪賞

田澤義鋪の実績に基づき、明正選挙運動、地方自治の発展や地域振興活動に取り組み優れた成果を収めた団体に一般財団法人日本青年館から贈られるのが田澤義鋪賞です。

[令和元年度の受賞団体]

今年度の田澤義鋪賞は、日青協実践大賞に応募した取組みの中から、愛知県の安城市青年団協議会が取り組んだ「南吉生誕祭における『南吉盆踊り』」の取り組みにおくられました。

## 10. 国際交流活動

### 1）中日青年交流センターとの交流

中日青年交流センターは、1984年、当時の中曽根康弘内閣総理大臣と中国の胡耀邦総書記との共同発意により、日中友好21世紀委員会が、その建設をそれぞれの政府に提唱し、日本政府の無償資金協力と中国政府の資金により1991年共同プロジェクトで建設された施設です。以来、日本青年館は施設の運営等について支援・交流するため、中日青年交流センターから研修生を受け入れるなど施設間の交流を続けてきました。今年度の交流は以下の通りです。

（1）日本青年館訪中団の派遣（9月7日～12日 北京、内モンゴル自治区、大連市）

中日青年交流センターとの交流事業として、全国青年会館協議会との共催により山本常務理事を団長とする12名の訪中団を派遣しました。

今年は「国際協力への参加と東アジア近現代史の体感」をテーマに、内モンゴル自治区ダラト旗と大連市を訪問しています。21世紀飯店到着の夜に中日青年交流センターの馬興民主任による歓迎宴を受け、翌日は内モンゴル自治区ダラト旗を訪問。日青協の植林訪中団と合流し、日中両国の青年・学生とともに沙漠でポプラの苗木を植えました。大連市では開発が進む旅順港や造船施設、日ロ戦争最大の激戦地であった203高地や旧ロシア人街など、東アジア近現代史の面影を残しながら急速な発展をとげる大連市を視察しました。9月11日には大連市青年連合会林木副主席による送別会が行われました。今回の訪中団の構成は以下の通りです。

団長	山本 信也	(一財) 日本青年館常務理事
顧問	佐々木計三	(株) ニッセイ社長
秘書長	田中 潮	(一財) 日本青年館公益事業部事業課長
団員	國廣 京子	(一財) 北海道青年会館常務理事
団員	畠山 勲	(一財) 日本青年館維持会員 (秋田)
団員	畠山 政子	(一財) 日本青年館維持会員 (秋田)
団員	渡辺 政巳	(一財) 宮城県青年会館常務理事
団員	江口 芳人	(株) ニッセイ総務部長
団員	宇田川浩介	(株) ニッセイ社員
団員	原野 博	山梨県青年団OB会
団員	村上 嘉彦	(一財) 防長青年館維持会員

## (2) 中日青年交流センター訪日団の受け入れ

2019年4月19日より23日の日程で、中日青年交流センターより洪桂梅副主任を団長とする13名の代表団を受け入れました。今回の訪日団は日本の科学技術への視察をテーマに掲げており、茨城県つくば市の産業技術総合研究所や日本メクトロン(株)を訪問したほか、都内プログラムでは日本科学未来館やソニー・エクスプローラ・サイエンスなどを視察しました。また、栃木県青年会館を訪問し夕食会を開催していただいたほか、大谷石資料館等を視察しました。

なお、2018年度に中日青年交流センターからの訪日が実現しなかったため、この訪日団を2018年度および2019年度の2カ年の位置づけとしました。

### <名簿>

No.	名前	所属と役職
1	洪 桂梅	中国国際青年交流センター副主任 北京国際青年研修学院院長
2	李 松鶴	北京国際青年研修学院 副院長
3	唐 曉旭	G20 創業研究センター管理委員会 副主任
4	彭 聡	順利弁情報サービス株式会社 董事長
5	李 儒雄	武漢光谷コーヒー創業投資有限公司 總經理
6	葛 健	天津安正路投資コンサルティングサービス有限公司 董事長

7	陳 慧谷	上海天沢金牛資産管理株式会社 総裁
8	呉 亜	己未創新資産管理有限会社 董事長
9	党 金	騰訊開放プラットフォーム 華北エリアマネージャ
10	肖 氷	陝西榮大華盛投資管理会社 董事長
11	柴 博	中国省エネ協会弁公室 副主任
12	張 偉正	中国国際青年交流センター 副部長
13	崔 斌	中国国際青年交流センター 科長

#### <日程>

- 4月19日 中国青年代表団13名入国 (OZ106)  
 宿泊：マロウドインターナショナル成田
- 4月20日 午前 大学共同利用機関法人「高エネルギー加速器研究機構」視察  
 午後 国立研究開発法人「産業技術総合研究所」視察  
 夜間 夕食会（栃木県青年会館コンセーレ会場）  
 宿泊：栃木県青年会館コンセーレ
- 4月21日 午前 大谷石資料館・大谷磨崖仏等 見学  
 午後 JR東北新幹線 宇都宮発東京駅へ（やまびこ138号）  
 パナソニックセンター東京 視察  
 夜間 歓迎会（日本青年館9Fバンケットルーム）  
 宿泊：日本青年館ホテル
- 4月22日 午前 日本科学未来館 視察  
 ソニー・エクスプローラ・サイエンス 視察  
 午後 銀座・お台場海浜公園周辺散策  
 東京湾クルーズ・水上バス（お台場海浜公園～日の出栈橋）  
 宿泊：ホテルサンルート有明
- 4月23日 午前 日本メクトロン株式会社 視察  
 午後 成田空港から帰国（CA926）

## 1.1. 関連事業

### 1) 全国青年会館協議会活動

各県における青年団運動の拠点としての役割を担う青年会館の建設は、昭和25年2月の佐賀県青年会館がスタートでした。その後、各地に青年会館の建設運動が起こり、現在22の都道県に青年会館があります。それらの青年会館同士の連絡協調と青年団体の振興、地域社会の発展を図ることを目的として、全国青年会館協議会が組織され活動しています。

主な活動内容は、財団運営に関わる研修、青年団をはじめとする青少年団体への支援、施設運営のノウハウの相互交換など多岐にわたっています。今年度は以下の活動を展開してまいりました。

#### (1) 総会（6月12日～13日 佐賀県青年会館）

全国青年会館協議会総会を6月12日～13日にかけて佐賀県青年会館で開催しました。総会には13館22名の出席があり、昨年度の事業報告・決算及び今年度の事業計画・予算を審議し

決定しました。また、本総会において新たな理事会館として鹿児島県青年会館が選出されたほか、新たに香川県青年センターの加盟が承認されました。

## (2) 役職員研修会の開催について (9月18日～19日 宮城県青年会館)

各会館の役職員研修会を宮城県青年会館にて開催し、7会館16名が参加しました。本年は、公益事業を通じ会館の運営を支えている事例の報告と、宿泊施設におけるWEBを活用した販売方法について研修を行いました。また、翌日には気仙沼市を訪れ、震災の惨状跡と、8年を経た今もなお復興途上にある現地のようすを視察しました。

## (3) 理事長会 (10月31日～11月1日 JSOSビル、明治神宮)

JSOSビルにて理事長会を開催し、13会館から18名が参加しました。各会館の上半期の状況報告とあわせ、ラグビーワールドカップ、2020年のオリンピック・パラリンピック、2021年のワールドマスターズゲームズなど、世界的なスポーツイベントが続く中、スポーツに関連したコンテンツで海外の方を地域に呼び込み地域活性化を図る、「スポーツツーリズム」の取り組みについて、スポーツ庁よりスポーツ庁参事官(地域振興担当)スポーツ戦略官の坂本秀敬氏を講師としてお招きし、「スポーツツーリズムを通じた地域でのインバウンド誘致の取り組み」について講演いただき、いかに会館運営につなげていくのかを学ぶ機会としました。翌日は、明治神宮秋の大祭に、大九報光会、田澤義鋪記念会総会とともに参列しました。

## (4) 理事会 (2月12日 日本青年館)

翌年度の総会に上程する2019年度決算見込み、2020年度事業計画と予算について審議するため理事会を開催しました。出席は7館7名。2020年度総会は北海道青年会館にて2020年6月2日～3日にかけて開催する予定でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、総会は中止とし書面での決議を行うこととしました。

## (5) 加盟青年会館一覧 (2020年3月31日現在)

一般財団法人北海道青年会館	〒060-0806	札幌市北区北六条西6-3-1	TEL011-726-4235
一般財団法人岩手県青少年会館	〒020-0196	盛岡市みたけ3-38-20	TEL019-641-4550
一般財団法人宮城県青年会館	〒983-0836	仙台市宮城野区幸町4-5-1	TEL022-293-4631
一般財団法人秋田県青年会館	〒011-0905	秋田市寺内神屋敷3-1	TEL018-880-2303
福島県青年会館	〒960-8103	福島市舟場町3-26	TEL024-523-1484
茨城県立青少年会館	〒310-0034	水戸市緑町1-1-18	TEL029-226-1388
(公益社団法人茨城県青少年育成協会)			
一般財団法人栃木県青年会館	〒320-0066	宇都宮市駒生1-1-6	TEL028-624-1417
群馬県青少年会館	〒371-0044	前橋市荒牧町2-12	TEL027-234-1131
(公益財団法人群馬県青少年育成事業団)			
一般財団法人福井県青年館	〒910-0005	福井市大手3-11-17	TEL0776-22-5625
一般財団法人静岡県青少年会館	〒420-0068	静岡市葵区田町1-70-1	TEL054-255-2566
一般財団法人愛知県青年会館	〒460-0008	名古屋市中区栄1-18-8	TEL052-221-6001
一般財団法人滋賀県青年会館	〒520-0851	大津市唐橋町23-3	TEL077-537-2753
一般財団法人島根青年館	〒690-0033	松江市大庭町1751-13	TEL0852-21-2818
一般財団法人岡山県青年館	〒700-0081	岡山市北区津島東1-4-1	TEL086-254-7722
一般財団法人防長青年館	〒753-0064	山口市神田町1-80	TEL083-923-6088
一般社団法人香川県青年団体育成支援協議会	〒769-0102	高松市国分寺町国分1009番地	TEL087-874-0713

特定非営利活動法人高知県青年会館	〒781-2122	吾川郡いの町天王北1-14	TEL088-891-5300
一般財団法人佐賀県青年会館	〒849-0923	佐賀市日の出1-21-50	TEL0952-31-2328
一般財団法人熊本県青年会館	〒862-0950	熊本市水前寺3-17-15	TEL096-381-6221
一般財団法人鹿児島県青年会館	〒890-0005	鹿児島市下伊敷1-52-3	TEL099-218-1225
一般財団法人沖縄県青年会館 (事務局)	〒900-0033	那覇市久米2-15-23	TEL098-864-1780
一般財団法人日本青年館	〒160-0013	新宿区霞ヶ丘町4-1	TEL03-6452-9015

## 2) 全国青年団OB会 第38回総会岐阜大会の開催 (10月20日～21日 下呂温泉)

全国25都道府県から117名、岐阜県内から57名総勢168名のOB・OGの参加を得て、全国青年団OB会主催、地元実行委員会主管により開催しました。

開会式においては古田肇岐阜県知事の来賓あいさつをいただいたほか、総会後には記念講演として衆議院予算委員長である野田聖子氏より「社会情勢の変化に伴う青年の役割」をお話しいただきました。また、特別報告として青年団OBによる会社設立の歴史を岐阜県青年団OB大野周司氏と青協建設株式会社代表取締役各務剛児氏よりいただきました。2日目の視察観光プログラムでは、国史跡である高山陣屋(江戸時代の代官所)をはじめ、高山市内の街並みを視察しました。

今後の総会予定は以下の通りです。

①第39回総会・大分大会 2020年10月11日～12日 大分県別府温泉

## 3) 大九報光会(11月1日 明治神宮)

明治神宮造営に際し、全国の青年団が労力奉仕にあたり、そのことがきっかけとなって日本青年館は誕生しました。その造営の労力奉仕に参加された方々が1950年(昭和25年)11月1日、明治神宮御鎮座30年祭に参加された折、そのことを記念して大九報光会を結成しました。「大九」とは、明治神宮御鎮座の年、大正九年に由来し、さらに耐乏生活に耐え、光明と希望に生きる耐久生活にもかけて命名されたものです。以来、ほぼ毎年11月1日に労力奉仕に参加された方の二世、三世の方々等により明治神宮において総会が開催されています。

今年度も田澤義鋪記念会と合同にて開催し、総会には9名の参加がありました。お孫さんとともに参加している方など、世代を超えて造営奉仕の精神が継承されていることがうかがえました。総会終了後は、会館協議会理事長会の参加者及び田澤記念会の参加者ととともに、明治神宮・秋の大祭に参列しました。

## 4) 清溪フォーラム行政懇談会(5月23日 宮城県富谷市)

青年団出身の首長で組織している清溪フォーラムの今年度の行政懇談会は、宮城県富谷市にて開催しました。出席会員は、伊藤大崎市長、大西長門市長、若生富谷市長、保坂甲斐市長の4名と日本青年館から山本常務理事、松尾総務課長が参加しました。

当日は、富谷市役所にて富谷市の低炭素水素プロジェクトや起業支援施設整備、スイーツを活かした地域活性化等の取組みの報告を受けた後、富谷市内を視察しました。その後、松島へ移動し、夕食を兼ねた意見交換会を行いました。

会員は以下の通りです。(敬称略)

会 長	伊藤 康志	(宮城県大崎市長)
幹 事 長	大西 倉雄	(山口県長門市長)
幹 事	若生 裕俊	(宮城県富谷市長)

	金森	勝雄	(富山県舟橋村長)
	大野	久芳	(富山県黒部市長)
監 事	保坂	武	(山梨県甲斐市長)

## 12. 後援・協力事業

今年度、日本青年館が依頼を受けて後援・協力をした事業は下記のとおりです。

1) 日中友好ボウリング大会 7月27日

〈主催者〉 日中友好ボウリング大会準備委員会、(一社)東京華僑総会、  
(一社)東京華助中心

※後援名義使用

2) 第45回太陽美術展 11月17日～11月24日

〈主催者〉 太陽美術協会

※後援名義使用、日本青年館賞提供